

受講番号 19090 学校名 日高中学校 氏名 竹村 祐子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 38名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 (三省堂)

クラスの様子・特徴

落ち着いて、真面目に授業に取り組んでいる。コミュニケーション活動については、全員が意欲的に取り組むことができる。しかし、一部の生徒は、英語を読んだり、書いたりすることが苦手である。また、昨年度と比べると、歌や音読の声が小さくなった。

問題の確定

単語を正しく書けないと感じている生徒が多く、それが英語に対する自信のなさにつながっているため、語彙力を高める必要がある。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
落ち着いた授業態度で、コミュニケーション活動やペア活動についても、全員が意欲的に取り組み、積極的に英語を使おうとしている。音読については、ほとんどの生徒がスラスラ読めるが、一部苦手な生徒があり、ワークシートも自力で解くことは難しい。	現在の授業を「楽しい」と感じている生徒は95%であった。また、半数が「話す力」を身につけたいと思っている。英語の授業で難しいと思うところは、「単語」が約5割で最も多く、今後の授業でも、単語を覚えられる授業を望んでいる生徒が多かった。	1年生の2月実施のCRTの結果においては、「聞くこと」(全国比100)、「話すこと」(同90)、「書くこと」(同94)で、特に「読むこと」「書くこと」の力が十分ついていない。

リサーチ・クエスト

自分の考えを英語で表現できるようにするために、その基礎となる単語指導や語順指導をどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1 毎時間単語テストを行うことにより、家庭学習が習慣化し、生徒の語彙力が高まるのではないだろうか。それが基礎・基本の定着につながり、英語の力への自信につながるのではないか。	実践1 毎時間新出単語のテストを行った。教師の英語を聞き取り、つづりと日本語訳を書き形で、テストの単語については事前にリストを配布し、前時には発音と意味の確認を行った。その際、フラッシュカードを使い、一年次に指導したフォニックスのルールを意識した説明を行い、文字とつづりの徹底を図るようにした。書いて覚えるのは、家庭学習の課題とした。また、単語テストの結果を各自で記録させて、生徒に成果がわかるようにした。	検証1 単語テスト(10問)は21回実施したが、多くの生徒が満点をとり、全テストの平均点は90点であった。単語を覚えるのが苦手な生徒も少しずつ努力するようになってきた。「以前と比べて単語力がついた」と感じている生徒が約83%で、単語テストの点数が低い生徒は「単語力があまりつかなかった」と感じていた。また、自分で得点を記録していったことが意欲づけになったようである。
仮説2 授業の中で本文の音読練習を工夫し、繰り返し行うことにより、単語や語順の定着を高め、自分のことを表現できることにつながるのではないか。	実践2 音読の苦手な生徒も含め、全員を参加させるために、必ず「一語読み」を行った。その後、チャンク読み、一文読み、交互読み、ペア読み、1分間個人読み、1分間ペア読みなどさまざまな読み方をし、繰り返し練習できるよう工夫した。1分間読みでは、意欲的に取り組ませるため、読んだページ数や行をポイントとして与えた。また、定期テスト前には音読テストを実施した。	検証2 一語読みを実施したり、練習量を多くしたことにより、教科書が読めない生徒がいなくなってきた。また、「前より音読ができるようになって良かった」という生徒の感想もあった。読んだページや行数をポイントとして与えることにより、意欲的に取り組む姿が見られ、音読の声も大きくなってきた。音読テストでは、3割程度の生徒が暗唱を行い、9割の生徒がスラスラ読むことができた。
仮説3 ペアで行う日常会話の口頭練習や、基本文を用いた様々なコミュニケーション活動を行えば、英語を口にするのに慣れるとともに、多くの表現を身につけることができるのではないか。また、語順の理解にもつながるのではないか。	実践3 「英会話たいそう」のビデオに合わせて練習したあと、ペアでインプット活動を行い、チェックをした。基本文については、簡潔な説明をこころげ、語順についてもしっかりと理解させたあと、プリント学習やさまざまなコミュニケーション活動を行い、基本文を覚えさせるようにした。既習の文法事項を含んだ歌を毎日歌い、暗記させるようにした。また、活動やプリント学習にも、自己表現の機会を多くとるようにした。	検証3 「英会話たいそう」のビデオを楽しみにし、授業以外でも口ずさんでいた。3回練習させ、4回目を評価することにしたが、ほぼ全員が全て覚えていた。「役に立った」と感じていた生徒もかなり多かった。基本文については、プリントでの確認や、口頭練習、コミュニケーション活動で何度も練習させ、関連した歌を歌うことで、より定着したように思う。自己表現作文では、語順を意識して取り組むことができていた。

研究の成果

アクションリサーチ前のアンケートで、英語の授業の中で「単語」が難しいと感じている生徒が半数もいることを知った。今回アクションリサーチに取り組むことで、単語力がついたと実感している生徒が多く、そのことが生徒の意欲や、英語に対する自信につながったように感じる。単語を覚えることを生徒があまり負担に感じていないのは、単語テストが定着してきたこと、以前から取り組んでいたフォニックスが役に立っているからだと思う。また、語順を意識して文を作る生徒が多くなってきたことは大きな成果である。

今後の授業改善の課題

今後の授業でも、今回のアクションリサーチで取り組んだことを引き続き行っていくつもりである。自己表現作文の発表ができなかったため、来学期はさらに語順指導を工夫し、全体で発表をさせたい。英語が苦手な生徒への働きかけが大きな課題であるが、生徒同士の関わり合いやグループ活動を充実させ、また少人数指導を生かし個別指導を多く行うことで、英語が苦手な生徒も意欲的に取り組むわかる授業に努めていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-24-5840